

2010年度特定共同研究申請書

1.応募領域（丸を付けてください） 古代史料領域 ○中世史料領域 近世史料領域 海外史料領域 複合史料領域
2.申請課題名 春日大社所蔵「大東文書」の調査・撮影
3.申請者 (所属部門・職名・氏名) 古代史料部門・助教・藤原重雄
4.所内共同研究者 (所属部門・職名・氏名) 中世史料部門・准教授・末柄豊 史料保存技術室・技術専門職員・谷 昭佳
5.希望する研究期間 2010 年度～ 2011 年度 (2 年間)
6.課題の概要(400字程度) (この項は広報等に利用・掲載することがあります) 近年春日大社に寄贈された「大東文書」を撮影し、一点目録を作成する。この文書群は、春日社旧社家の有力三家のうちの大東家が所蔵していたもので、平安時代～江戸時代の古文書約 300 点からなり、慶長以前のものが過半を占める。これら全点をデジタル撮影して史料編纂所図書室において公開するとともに、詳細な目録を採取して公刊し、「日本古文書ユニオンカタログ」にも書誌データを登録する。中世古文書原本の新規撮影・目録作成とその公開をリレーショナルに展開する実験としての性格も備える。
7.研究の目的(400字程度) 「大東文書」は、社家大東家に伝来した文書のみならず、廃仏毀釈の際などに入った興福寺関係文書も多く含まれている。これまでに春日大社の所蔵となっている「春日大社文書」も、神社そのものに伝わった文書というより、明治期以降に旧社家から寄贈された各家の伝来文書や興福寺旧蔵文書がほとんどを占めており、本来「大東文書」とは一体的な関係にあった。このたび「大東文書」が春日大社に寄贈されたことによって、興福寺・春日社関係文書の総合的研究を進めるための環境がより向上し、基礎的な条件整備として、写真撮影と一点目録の作成は、時宜に叶ったものとなろう。分散の著しい興福寺・春日社関係文書を集中的に閲覧しやすい環境の整っている史料編纂所において、影写本に加えてデジタルでのカラー画像を公開することにより、いっそうの研究の進展に寄与できよう。多くは影写本・活字本によってすでに内容的には知られているが、その校訂を行うとともに、平安期からの新出文書の目録と併せて翻刻紹介する。

8. 共同利用・共同研究として進める意義と期待される研究成果(400字程度)

「大東文書」は、近年新たに春日大社の所蔵となった文書群であり、共同研究として進めることにより、所蔵者側の管理体系と一体的な目録の作成が可能である。この文書群は、すでに大部分は一度（戦前の『春日神社文書』三）、中世分は二度（加えて戦後の『春日大社文書』六）にわたり翻刻されているが、両者の文書番号は同一でなく、いささか錯綜している。とりわけ両翻刻とも、一連の案文や連券を一通ごとに分割して全てを単一文書として年代順に配列する方針を採っており、モノとしての形態とは対応関係が分かりにくく、現在の史料学的な検討には不明瞭な点もまま存在する。内容的に文化財指定の際の文書目録に近い書誌データを採取しておくことで、将来の保存に対する備えともなる。また、所蔵者・現地側の主体的な関与により、目録や画像を通じて、地域史史料としての活用を促進することができる。

9. 研究の実施計画

2010年9月：春日大社にて調査。全点をデジタル撮影し、調書を作成する。

（奈良出張：3泊4日×4人、東京出張：1泊2日×1人）

以下は、2011年度以降の実施予定について記述するものである。

2011年9月：春日大社にて調査。調書を作成するとともに、その統一などを図る。

（奈良出張：3泊4日×3人、東京出張：1泊2日×1人）

2011年度：一点目録を公刊する。一点ごとの書誌データを「日本古文書ユニオンカタログ」に登録・公開する。

（目録出版費用、データ整形・登録補助）

10. 研究成果の公開計画

『春日大社所蔵「大東文書」目録』（仮称）を刊行。

書誌データを「日本古文書ユニオンカタログ」でインターネット公開。

文書画像を史料編纂所図書室にて閲覧に供する。

（奈良県立図書情報館など、現地側での公開については協議中。）

11. 共同研究員にもとめる役割

大規模な寺社所蔵史料を共同で調査・研究・撮影し、その目録調書作成・管理・公開等について研究する。